

AE減水剤

フローリック SV・RV

フローリックSVおよびフローリックRVは、JIS A 6204（コンクリート用化学混和剤）AE減水剤（I種）に適合するAE減水剤です。

フローリックSVおよびフローリックRVを使用すると、従来のAE減水剤よりも高い減水効果を得ることができます。また、セメント粒子への高い分散作用とコンクリートへの良質な空気連行作用により、コンクリートのワーカビリティを確保しつつ、表面仕上がりの美しい、耐久性の優れたコンクリートを経済的に造ることができます。

特長

- 分散・空気連行作用により、従来のAE減水剤よりも更に単位水量を低減でき、コンクリートのワーカビリティを非常に良好にします。
- 材料分離を抑制し、ブリーディングの少ない密実なコンクリートをつくります。
- 凍結融解抵抗性、水密性の向上、中性化の抑制等、耐久性の改善に大きく寄与します。
- コンクリート中の鉄筋、鋼材等の発錆の原因となる塩化物を含みません。
- 遅延形のフローリックRVは、暑中コンクリートのコールドジョイント防止に有効です。

物性

種類	フローリックSV	フローリックRV
区分	AE減水剤標準形（I種）	AE減水剤遅延形（I種）
主成分	リグニンスルホン酸塩とオキシカルボン酸塩	
外観	黒褐色液体	
塩化物イオン量（%）*	0.05	0.04
全アルカリ量（%）*	1.0	1.1
密度（g/cm ³ , 20°C）	1.06～1.12	

（*分析値例）

使用方法

- フローリックSVおよびフローリックRVの標準使用量はセメント質量に対し、1.0wt%ですが、使用目的に応じて0.8～2.0wt%の範囲でご使用ください。
- フローリックSVおよびフローリックRVは、単位水量の一部として計算してください。
- 単位水量は、プレーン（基準）コンクリートよりも12～17%減少してください。
- 連行空気量が少ない場合には、当社のAE助剤をご使用ください。
AE助剤の使用量は、当社担当者にご相談ください。

1. 配合

種別	添加率 (C × wt%)	W / C (%)	s/a (%)	単体量 (kg / m ³)			
				水	セメント	細骨材	粗骨材
プレーン	-	60.0	48.0	180	300	876	978
フローリックSV	1.0	51.0	47.0	153	300	853	994
フローリックRV	1.0	51.0	47.0	153	300	853	994

使用材料 セメント：普通ポルトランドセメント3種等量 混合密度：3.16 (g/cm³)
 細骨材：掛川産山砂 密度 2.58 (g/cm³) 吸水率 1.51 (%) F.M. 2.79
 粗骨材：青梅産砕石 密度 2.64 (g/cm³) 吸水率 0.67 (%) F.M. 6.74

2. 試験結果

種別	スランプ (cm)	空気量 (%)	ブリーディング量 (cm ³ /cm ²)	凝結時間(h-min)		圧縮強度(N/mm ²)		長さ変化率 (%) 6か月
				始発	終結	材齢7日	材齢28日	
プレーン	8.5	1.8	0.25	5-35	7-25	25.8	39.6	0.079
フローリックSV	7.0	4.7	0.13	6-30	8-25	34.1	48.7	0.078
フローリックRV	8.0	5.2	0.13	7-25	9-35	33.5	48.8	0.078

3. 品質性能試験結果

項目	AE 減水剤 標準形 I種		AE 減水剤 遅延形 I種	
	JIS A 6204 規格値	フローリックSV	JIS A 6204 規格値	フローリックRV
減水率 (%)	10以上	15	10以上	15
ブリーディング量の比 (%)	70以下	52	70以下	52
凝結時間の差 (分)	始発	-60~+90	+55	+60~+210
	終結	-60~+90	+60	0~+210
圧縮強度比 (%)	材齢7日	110以上	132	130
	材齢28日	110以上	123	123
長さ変化比 (%)	120以下	98	120以下	99
凍結融解に対する抵抗性 (相対動弾性係数 %)	60以上	93	60以上	97
塩化物イオン量 (kg/m ³)	0.02以下	0.00	0.02以下	0.00
全アルカリ量 (kg/m ³)	0.30以下	0.03	0.30以下	0.03

(自社で実施した試験結果)

取扱い上の注意

- フローリック製品が皮膚に付着した場合には、清水で洗浄してください。
- 飲み込んだ場合には、直ちに吐き出し、必要に応じて医師の診断を受けてください。
- 目に入った場合には、清水で洗眼し、医師の診断を受けてください。
- 詳細は当社の安全データシート（SDS）をご覧ください。

使用上の注意

- 使用量は所定標準量になるように管理してご使用ください。
過剰に使用されますと空気量が過大となり、コンクリートの強度低下を起こします。またフローリックSVおよびフローリックRVを標準使用量の3倍以上使用しますと、凝結時間が相当遅れますのでご注意ください。
- 冬期には凍結にご注意ください。

荷姿

- タンクローリ



日本製紙グループ

株式会社フローリック

本 社 〒170-0013 東京都豊島区東池袋1-10-1 TEL.03-5960-6911 FAX.03-5960-6915

ホームページ：<https://www.flowric.co.jp>